

システム構成ガイド Storage Server 概要編

[2012.12]



◆価格について

◆本書に記載の価格はすべて税込です。据付調整費、使用済み商品のお引き取り費は含まれておりません。

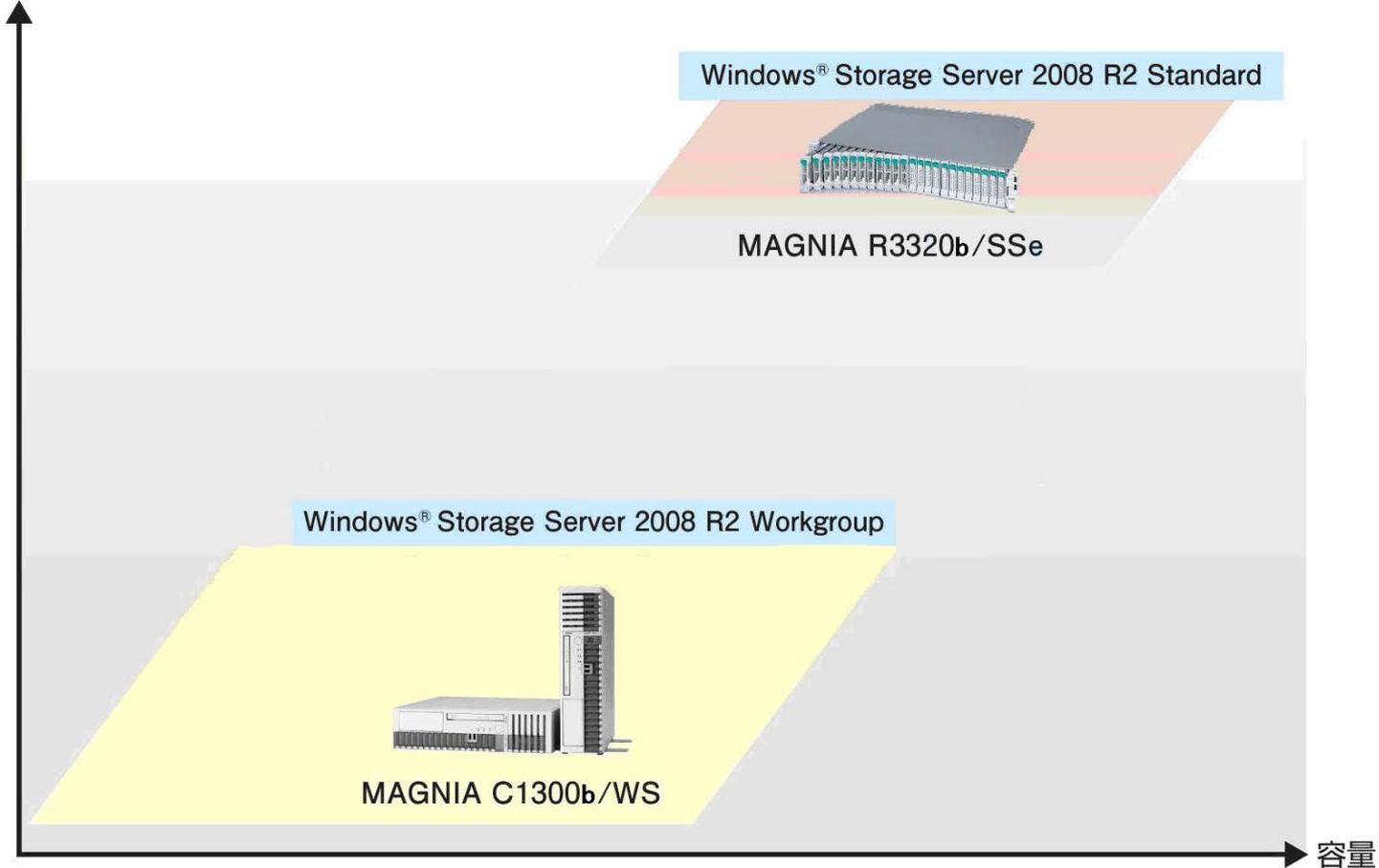
もくじ

MAGNIA Storage Server構成ガイド 概要編	ページ
概要	2
特長	3
ネットワーク構成例	5
システム構成セレクション	6

MAGNIA Storage Serverシリーズの概要

MAGNIA Storage Serverシリーズは中規模ネットワークのファイルサービスやネットワークストレージ用途に最適化したラインナップです。ファイル管理の柔軟性をさらに向上させ、肥大化するデータ管理はもとより、ネットワークの効率的な運用を実現します。

● シリーズラインナップ 性能・信頼性

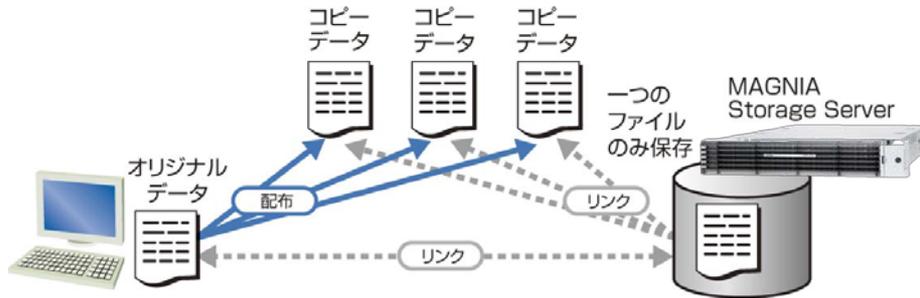


MAGNIA Storage Serverシリーズの特長

<MAGNIA Storage Serverが提供する、効果的なストレージ機能>

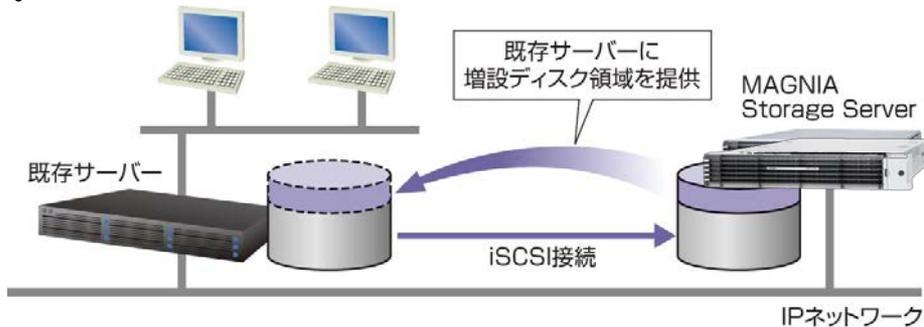
1 ディスクスペースの節約に

メールで添付されたファイルなど同一内容のファイルをユーザーごとに保存するようなケースにおいても、単一のファイルとそのファイルへのリンク情報のみを管理することで、ディスクスペースを節約することができます。



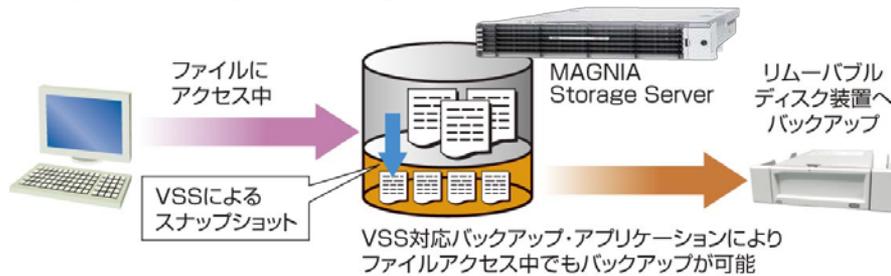
2 既存サーバーの増設ディスク領域に

ストレージサーバーのディスク領域をアプリケーションサーバーのディスク領域としてご利用できます。マイクロソフトの仮想化テクノロジーHyper-V®環境のクラスター共有ボリュームとしてもご利用できます。



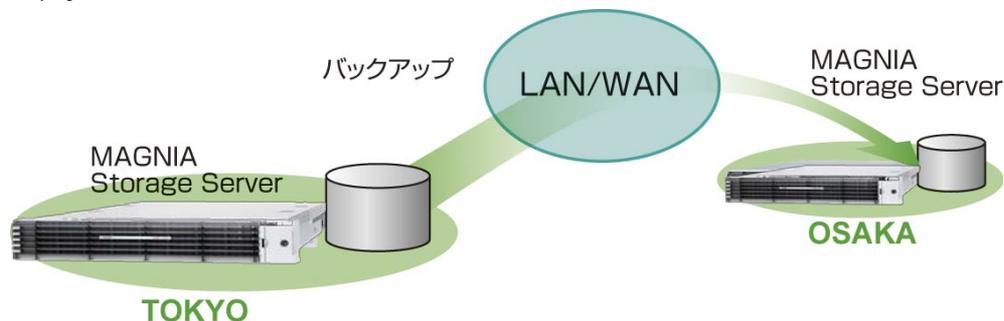
3 データの定期的なバックアップに

データを任意の時点でバックアップ。バックアップポイントは最大 64 世代まで管理可能。管理者ではなく、ユーザー自身での復旧も可能にしました。



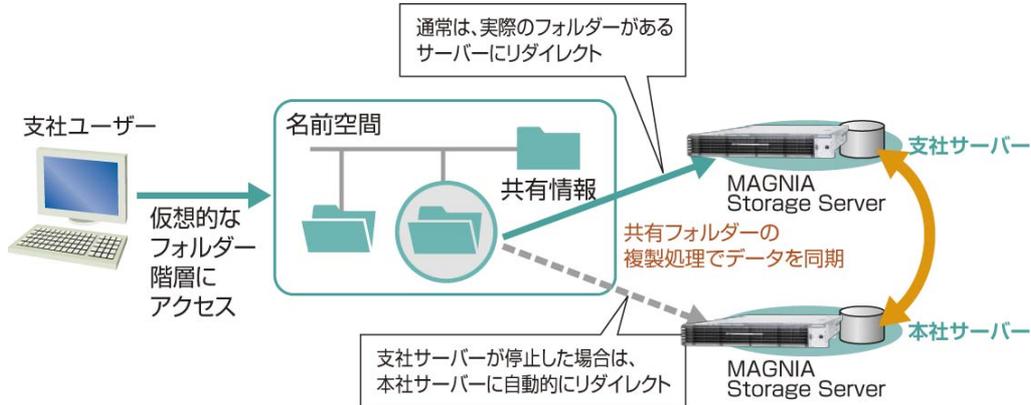
4 拠点ファイル複製の効率化に

複数拠点間で交互にデータをバックアップ。ファイルの変更部分のみをバックアップするため、高速処理が可能な上、各々のMAGNIA Storage Serverに同じデータを配置することで、地域災害対策としても最適です。



5 共有フォルダーの統合に

複数のサーバーにある共有フォルダーを仮想的に一つのフォルダーツリーとして統合。ユーザーは部門サーバーなどの保存先を意識せずに業務を遂行できます。



<その他の特長>

● Microsoft® Windows® Storage Server 2008 R2 を採用

Server Message Block (SMB) 2.1 プロトコルのサポートにより、Windows® 7 クライアントやWindows Server® 2008 R2 のサーバーから高速で快適なネットワークアクセスを実現します。新たにWorkgroupモデルでもiSCSI3.3 ブロック I/O ストレージをサポートしたことで、安価にSQL Server®、SharePoint®、Exchange Serverおよび Hyper-V®の仮想マシンや VMware®などのVHDファイルといったオペレーティングシステムに対し、iSCSIターゲットとして利用できます。

● 2WayラックモデルはSASディスクを26台搭載可能

ラックモデルの「MAGNIA R3320b/SSe」は、高性能なSASディスクや安価なSATAディスクをサポートし、高速なディスクアクセスや安価なストレージを実現できます。また、ディスク搭載数も4台で8TBから、26台で26TBと大幅にディスク容量を増やしました。仮想化で要求される高速、大容量にこたえるストレージを実現します。

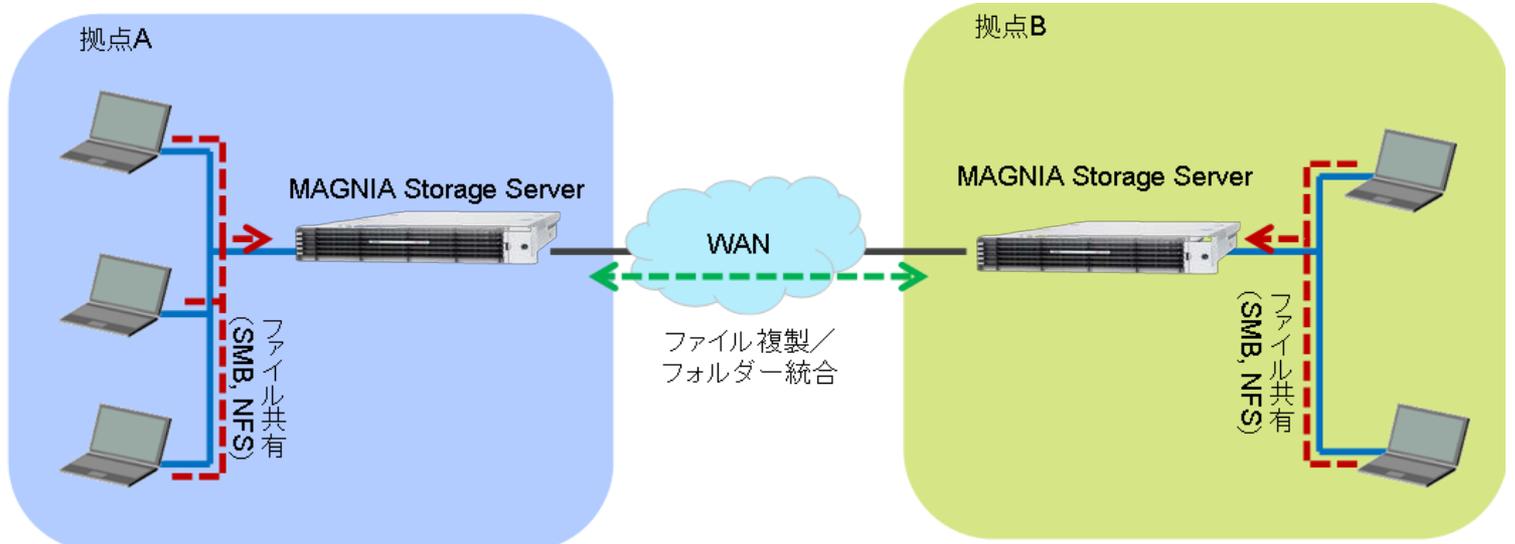
● 1WayコンパクトモデルはCPUを高速化し、3TBディスクをサポート

コンパクトモデルの「MAGNIA C1300b/WS」は、CPUをPentium® G620 からG640 へ高速化しました。ディスクの転送速度も3Gb/sから6Gb/sに高速化し、新たに3TBディスクのサポートを追加しました。これによって最大容量が従来モデルの4TBから6TBへ拡大しました。

ネットワーク構成例

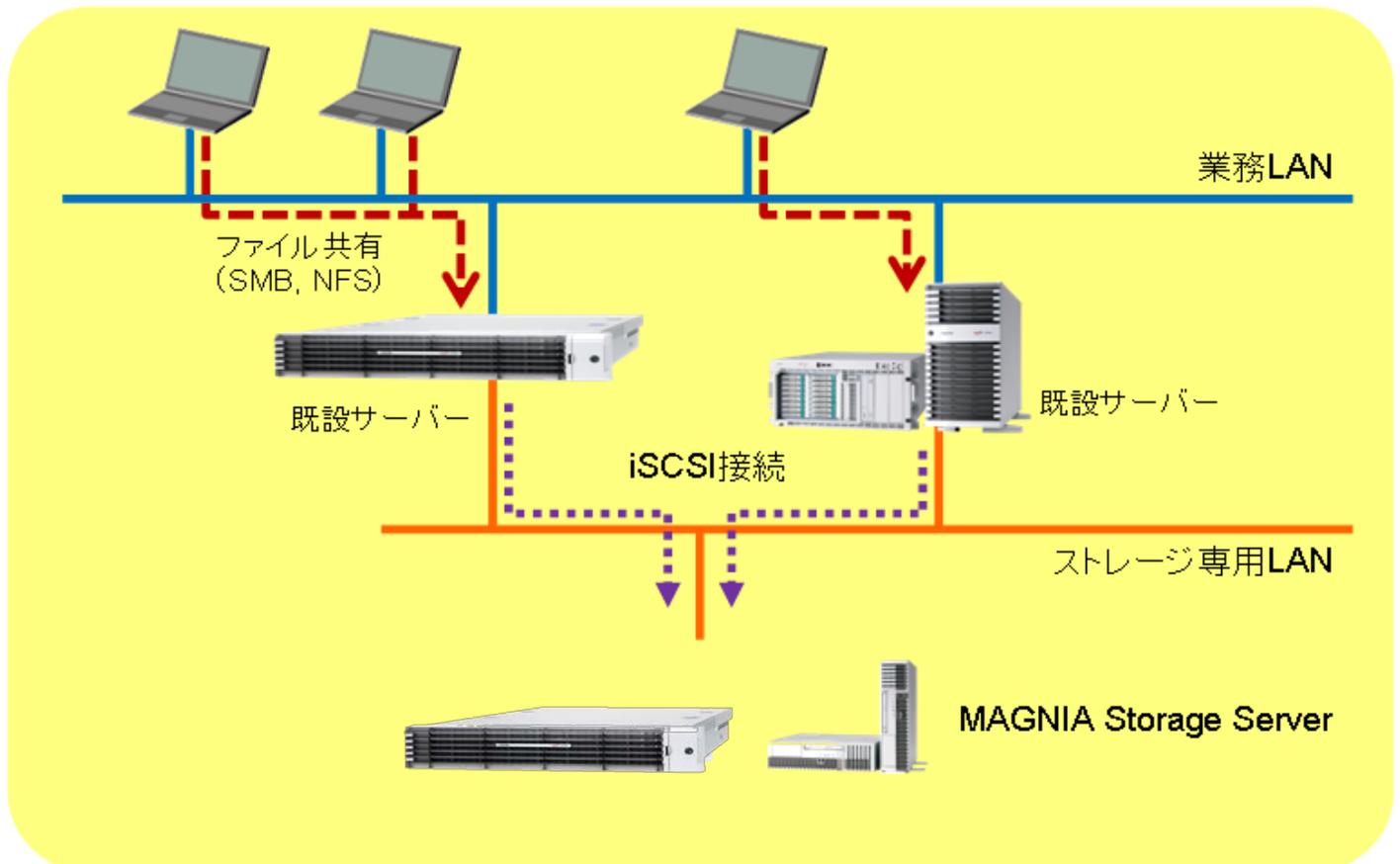
<ファイル共有／ファイル複製の例>

拠点ごとにデータを一元管理したり、クライアント間でファイルを共有したりするために、LAN (Local Area Network) を介してクライアントとMAGNIA Storage Serverを配置します。拠点間でのファイル共有や災害からデータを守るために、WAN (Wide Area Network) を介して拠点ごとのMAGNIA Storage Serverを接続します。



<iSCSI接続によるディスク領域増設の例>

容量が不足してきた既設のファイルサーバーや新たに構築するアプリケーションサーバーのデータ領域を確保するために、各種サーバーとMAGNIA Storage ServerをIPプロトコルによるLANで接続します。このLANはパフォーマンスの低下を防ぐために、ストレージ専用のIP LANとして構築することが望まれます。



MAGNIA Storage Serverシステム構成セレクション

MAGNIA Storage Serverの機種を選定するにあたり、参考となるシステム構成のセレクションガイドを以下に示します。容量、拡張性、増設性、性能、信頼性、ファイルサービスの利用者数規模によりお選びいただけます。

代表的な構成例の詳細については、機種ごとの構成ガイドの「ハードウェア構成例」を参照してください。

有効容量	機種	単体ディスク(GB)	ディスク本数	RAID構成	容量性	増設性	高性能信頼性	ポイント	利用者換算	最大同時接続数
24TB	R3320b/SSe	1000	26	2R1/8R5/8R5/8R5	◎	×	○	大容量	2300	無制限
21.6TB	R3320b/SSe	900	26	2R1/8R5/8R5/8R5	◎	×	◎	大容量・高性能	2070	無制限
3.5TB	R3320b/SSe	500	8	8R5(SATA)	◎	◎	○	拡張性	350	無制限
3.15TB	R3320b/SSe	450	8	8R5(10Krpm SAS)	◎	◎	◎	拡張性・高性能	315	25
3.07TB	R3320b/SSe	146	24	8R5/8R5/8R5(SAS)	◎	×	○	大容量・高性能	306	無制限
3TB	C1300b/WS	3000	2	2R1	◎	×	△	大容量・コンパクト	300	25
3TB	R3320b/SSe	1000	4	4R5(SATA)	○	◎	◎	拡張性	300	無制限
2.7TB	R3320b/SSe	900	4	4R5(10Krpm SAS)	○	◎	○	拡張性・高性能	270	無制限
2TB	C1300b/WS	2000	2	2R1	○	×	△	大容量・コンパクト	200	25
1.35TB	R3320b/SSe	450	4	4R5(10Krpm SAS)	×	◎	◎	低コスト	135	無制限
1TB	C1300b/WS	1000	2	2R1	×	×	△	低コスト・コンパクト	100	25
750GB	R3320b/SSe	250	4	4R5(SATA)	×	◎	△	低コスト・高性能	75	無制限
438GB	R3320b/SSe	146	4	4R5(15Krpm SAS)	×	◎	◎	高性能	43.8	無制限
500GB	C1300b/WS	500	2	2R1	×	×	△	低コスト・コンパクト	50	25

容量性 増設性(HDD接続) 高性能／信頼性 利用者規模:1人当たり10GB割り当てでの換算

◎:3TB以上 ○:残り1~2ポート

○:1~3TB ×:残りポートなし

△:1以下

◎:Xeon®, HW-RAID,SASディスク, Hot Plug HDD HDD

80 PLUS®SILVER,200V対応,BMC搭載,40°C稼働対応,

スケジュール運転機能,リモートKVM機能,電力上限制御機能

○:Xeon®, HW-RAID,SATAディスク,Hot Plug HDD,40°C稼働対応,

80 PLUS®SILVER, 200V対応,

BMC搭載 ,スケジュール運転機能,リモートKVM機能

電力上限制御機能

△:Pentium®,40°C稼働対応, 80 PLUS®SILVER, 200V対応,

BMC搭載 ,スケジュール運転機能,リモートKVM機能

■主な対応機能

機種	OS	仮想化 (Hyper-V®)	最大 同時接続数	SIS (重複排除)	iSCSI Software Target	VSS(ボリュ ームシャド ウコピー)	DFS(分 散ファイ ルシステ ム)	クォータ	レプリケ ーション
MAGNIA R3320b/SSe	Microsoft® Windows® Storage Server 2008 R2 Standard	ホスト/ゲスト	無制限	○	○	○	○	○	○
MAGNIA C1300b/WS	Microsoft® Windows® Storage Server 2008 R2 Workgroup	×	25	×	○	○	○	○	○

● VMwareの製品は、<http://www.vmware.com/go/patents>のリストに表示されている1つまたは複数の特許の対象です。VMwareは、米国およびその他の地域における VMware, Inc.の登録商標、または商標です

● Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Xeon、Xeon Inside、Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporationの商標です

● Microsoft、Windows、Windows Server、SQL Server、SharePointおよび Hyper-Vは、アメリカ合衆国および他の国におけるMicrosoft Corporationの商標または登録商標です。

● 80 PLUSは、米国Ecos Consulting Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。

● MAGNIAは東芝ソリューション株式会社の登録商標です。

● 本構成ガイドに掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標として使用している場合があります。